

平成27年度 学校評価 学校関係者評価

兵庫県立東灘高等学校

| No. | 重点項目 | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係者 評価委員の提 言 |
|--------------|---|-------|---|--|--|------------|--------------|---------------|-------------|--|---|
| 【1】 学力向上を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 1 | 質の高い授業を目指し授業力向上に努める。 (7) 授業評価 (4) 授業公開の推進 (9) 職員相互の授業研究の取り組み | 教務部 | (7) 生徒による授業評価を実施し、教員の授業力向上に活かす。 (4) 授業公開週間を実施する。 (9) 授業公開週間において、ワークショップ型授業研究会を実施する。 | ・全教員の授業に関する生徒の満足度の指標が70%超となる。 ・学期ごとの授業公開週間における参観者が20人超となる。 ・研究会実施後のアンケートにおいて、授業研究の参考になったという意見が80%以上となる。 | ・全教員が実施するには至らなかった。一部教員による実施結果は83%（設問に対し「強くそう思う」「そう思う」と回答した割合の平均値） ・年間を通じての参観者9名（告知・案内が遅れた） ・研究授業は2学期の授業公開週間に4科目実施 | 22.4% | 61.2% | 16.3% | 0.0% | ・生徒による授業評価を継続し、結果を教員間で共有する。 ・授業公開週間では、特に告知・案内の時期や方法について学力向上員会と連携し最適化を図る。 | 教職員の資質向上、授業の実践力向上のための取り組みは評価できる。教職員の年齢層が若いので情熱的な姿勢が印象深い。同時に経験値の不足が気になる。ベテランと若手が協力してよりよい授業づくりを目指して欲しい。 |
| | | 第1学年 | ・学年の授業巡回をすることで、授業に集中できる雰囲気づくりをサポートする。 ・学年会や放課後において、授業の情報交換を通じ、授業がより良いものとなるよう工夫する。 | ・授業巡回を毎時間行うことを目指す。 ・月に一度は授業について話題にする。 | ・定期的な巡回を行うとともに、その様子を学年内で報告情報共有。また、学年会や朝の打ち合わせなどで授業について週1回～月2回は話題にする。授業をスムーズに行うために、朝読でのベル着を徹底させている。 | 42.6% | 48.9% | 8.5% | 0.0% | ・次年度も引き続き巡回を行い、情報共有を行う。 ・朝読のベル着と同様のものを考え準備し、スムーズで落ち着いた授業開始を目指す。 | |
| | | 第2学年 | (7) 教務と連携して学期ごとに授業評価アンケートを実施し、授業の雰囲気改善につとめる。 (4) 学年の授業巡回指導で授業に集中できる雰囲気づくりをサポートする。 (9) 学年会や放課後の各クラスの授業の情報交換を通じ、授業がより良いものとなるよう工夫する。 | (7) アンケートにおいて、授業に関する生徒の満足度の指標が70%以上。 (4) (9) 学年担当の教師で月1回授業研究会を実施する。 | (7) 夏休み前に生徒に授業アンケートを実施。「わかりやすい」と答えた生徒は国語で95%、理科で100%、社会は90%であった。年度末にもアンケートを実施予定。 (4) 若手教員を対象に授業研究を随時実施、また空き時間を利用して指導力向上のための研修を行った（メンター制を導入）。年度末には実施状況をまとめた。 | 33.3% | 46.7% | 17.8% | 2.2% | 学力向上のベースは、授業の充実にあることは周知の事実である。東灘高校は、若い教員が多く授業展開に苦労されているようだ。若手教員の育成を図る組織的な取り組みが必要であると考える。授業アンケートは一部の教科とクラスでの実施であったので、次年度は全教科、全クラスの実施ができるようにしたい。 | |
| 2 | 生徒の授業に対する意識と意欲の向上を図る。 | 生徒指導部 | 年間を通して、毎月1回、1週間の期間で授業規律週間を実施し、授業規律徹底の指導に全職員で取り組む。 | 指導対象者を7人以内にする。 | 年間の授業規律週間の指導対象者は22名。各回平均3人。指導対象者の人数に大きな変化はないが、11月以降は、教師の指導意識に変化が見られ、比較的厳しめにチェック・注意をするようになった様子が見られた。日ごろの意識向上がカギである。 | 22.2% | 51.1% | 26.7% | 0.0% | 今後は、これまでの形だけでなく、服装指導のようなカード指導も検討していきたい。目標には、指導対象者数だけでなく、教師による指導の徹底度を測る指標の検討も必要。 | 基礎基本的な学習の充実を図る取り組みが効果を見せている。特に朝の遅刻を少なくすることで学習効果を高めようという取り組みが今後も継続して欲しい。 |
| | | 第1学年 | ・8時30分～40分の時間に朝読書を取り入れ、本を読む習慣を定着させるとともに、落ち着いた環境で授業を受ける姿勢を養う。 ・週末課題を課すことで、自学自習の習慣を確立させる。 ・学年独自の赤い手帳を活用し記入させることで、家庭学習時間の振り返りをさせる。 | ・朝読書用本忘れ0人を目指す。 ・週末課題提出率全員を目指す。 ・2週間に一度の担任点検を行う。 | ・朝読での本忘れゼロ。机上の整備と8:30ベル着のため、担任ローテーションを実施し、学年の足並みをそろえている。ベル着の状況は9.5割程度できている。 ・週末課題の提出状況は、平均すると9割できている。週末課題全員提出に向け、3学期の学年目標の項目として「提出物の徹底」をあげ、学年全体で取り組んでいる。 ・赤手帳の記入は、ほぼ習慣化している。 | 38.6% | 47.7% | 11.4% | 2.3% | ・ベル着の徹底、ベル着が当たり前に行えるよう指導を継続する。 ・週末課題で学力定着及び学習習慣の確立を目指す。 ・手帳を用い、時間管理できる能力を育てる。 | |
| | | 第2学年 | 授業規律週間以外にも学年独自に授業巡回を実施。家庭学習を充実させ、課題提出を通して自学自習の習慣をつける。 | 平日の家庭学習の平均時間が1時間を超える。 | 12月の調査では、進学意識の高いクラス（人文S）の1日の平均学習時間は約1時間であった。しかし、他のクラスでは、ほとんど家庭学習時間を確保できていない状況であった。 | 21.3% | 40.4% | 38.3% | 0.0% | 家庭学習時間を確保するために様々な方法を試みたが、進学意識の低い生徒は不可能に近い。進学意識を高めることで意欲と向上心が生まれ、家庭での学習時間が増加すると思われる。年度初めにそれぞれの進路希望を明確にし、それに向けての具体的な戦術と戦略を理解させることにより、学習時間を確保したい。 | |
| | | 第3学年 | 授業研究を学期に1回は実施。授業巡回は、規律週間以外も学年で巡回。進路実現に授業で力をつける取り組み。 | 授業規律の指導対象者0名。週間目標の達成及び家庭学習時間の1時間アップ。 | 授業規律の指導対象者5名。週間目標、時間管理は手帳を有効活用。家庭学習は個人差あり。 | 19.6% | 45.1% | 31.4% | 3.9% | 授業規律の指導対象者5名。週間目標、時間管理は手帳を有効活用。家庭学習は個人差あり。 | |
| 3 | 積み重ね学習により、基礎的な定着をはかる。 | 第1学年 | ・英単語テストを年間20回以上実施し、不合格者指導を徹底する。 ・漢字の小テストを年間20回以上実施し、基礎学力の定着を図る。 ・5教科において、小テストを実施することで基礎基本の積み重ねを図る。 ・学校設定科目「ブラッシュアップI」において、数学・英語の基礎的内容の定着を図る。 | ・合格者率8割以上を目指すとともに不合格者指導提出物全員提出を目指す。 ・毎回のテストで全員7割以上とれることを目指す。 ・定期的な小テストの実施。 ・6級合格を全員および1級合格者10人以上を目指す。 | ・英単語は現在22回実施。合格者は6割程度。 ・漢字の小テストは現在20回実施で、得点率は8.5割である。 ・国語では5回の小テスト実施、7割程度の合格。理科科目は学期に3回程度実施し、6割程度の合格。 ・「ブラッシュアップ」については、1学期の数学では1級合格61人。6級全員合格。2学期の英語では1級合格31人。6級全員合格。 | 26.7% | 57.8% | 15.6% | 0.0% | ・引き続き英語・国語での小テスト実施。 ・レベルに応じた課題の選定及び定着を図る仕掛けを考え実施。 | 学力の定着についての自己評価が低いので、より方法の改善を図って欲しい。 |

| No. | 重点項目 | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評 価委員の提 言 |
|-----------------------------|--------------------------------|-------|--|--|---|------------|--------------|---------------|-------------|---|--|
| 3 | 積み重ね学習により、基礎基本の確実な定着をはかる。 | 第2学年 | 進路希望別の補習を実施。特に人文S、理系には大学受験に対応できる内容とする。 | 指名補習の参加100%、希望補習の参加が40名以上。模試においてはGTZのBランク以上が各教科50名以上となることを目指す。 | 指名補習はほぼ全員が参加。不参加者には、個別対応を実施。希望補習は述べ40名が参加。12月の模試においてはGTZのBランク以上が国語65名、数学28名、英語52名であった。 | 27.3% | 50.0% | 22.7% | 0.0% | 次年度は、5教科で希望補習をする予定であり、国公立や有名私立大希望者対象の特別補習も考えている。模試の成績においては数学の力が弱く、受験に利用できない状態である。早急に対応策を考えたい。 | 学力の定着についての自己評価が低いので、より方法の改善を図って欲しい。 |
| | | 第3学年 | 進路別（進学、就職）の補習を実施。調査前の希望補習及び指名補習の実施。 | 指名補習の参加100%、希望補習の参加が40名以上となる。 | 指名補習の参加100%、補習の参加はのべ100名以上（1週間単位）。 | 39.6% | 47.9% | 10.4% | 2.1% | 補習計画の充実。指名補習の参加100%。休業中の補習参加者の増加。 | |
| 4 | 異校種連携や地域連携、学校外の研修などに意欲的に取り組む。 | 第1学年 | ・文化祭における「深江浜周辺企業調べ」において、企業の役割や社会のしくみ、仕事に就くことについて知り、進路決定に役立てるとともに、社会とのつながりを深める。 | ・社会とのつながりに関するアンケートを実施し、6割以上のものが社会とのつながりを感じ、充実感を感じることを目指す。 | ・「働くとは」「職業人とは」等について知る機会とし、全員が職場見学を実施。なかには職業人講話を実施するクラスもあり。「楽しかった」62%、「進路決定に役立つ」40.2%であった。「社会とのつながり」については、38%そう思うと答えた。 | 31.3% | 56.3% | 12.5% | 0.0% | ・2年生の夏季体験学習を活用し、在り方生き方教育を行う。 | 体験学習の機会を増やし、進路意識と結びつけることで生徒の意識も変化する。地域との連携を深めながら今後も積極的な活動を期待したい。 |
| | | 第2学年 | 進学希望者には夏休みにオープンキャンパスへに参加させ、進学意識を高める。また、甲南大等での学外の希望者学習会や補習を充実させる。 | 進学希望者はオープンキャンパスへ100%参加。希望者を対象に学習会や補習に40人以上が参加する。 | 夏休みに進学希望者は100%オープンキャンパスに参加した。進学者を対象にしている補習には、延べ40人が参加している。 | 43.8% | 50.0% | 6.3% | 0.0% | 次年度は、5教科で希望補習をする予定であり、国公立や有名私立大希望者対象の特別補習も考えている。進学希望者には全員参加するよう呼びかけたい。 | |
| 〔2〕 キャリアデザインの充実と希望進路の実現を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 5 | 3年間を見通した進路指導計画に基づき、進路指導の充実を図る。 | 進路指導部 | 全学年に進路目標および計画を立ててもらい、その実施に協力をする。 | 全学年が計画立案することを目指し、75%実施を目指す。 | 全学年に計画を立てていただき、ほぼ実施できた。 | 30.6% | 61.2% | 8.2% | 0.0% | 全学年に目標と計画を立てていただき、80%の実施を目指す。 | 3年間を見据えたキャリア教育を行うようとする意識が定着しているようだ。今後は、進学や就職を考える生徒の一人一人が自ら考えようとする気持ちを育てたい。 |
| | | 第1学年 | ・キャリア教育の計画（1年次のテーマは「発見！」）の取り組み項目を実施し、キャリア教育を推進する。 | ・取り組む項目実施を8割以上目指す。 | ・現在実施すべき内容については、実施済。 ・2学期末実施の大学見学は、同志社、関学、甲南、近大、他7校で実施。アンケートで「大学決めるのに役立つか」では、92.9%役立ったと答えた。 | 40.4% | 48.9% | 10.6% | 0.0% | ・3年間を見通したキャリア教育の計画の遂行と内容の密度を上げる。 | |
| | | 第2学年 | 計画的な補習や模試の事前指導により、進路意識を高める。オープンキャンパスへの参加及び進路ガイダンス、進路HRを充実。 | 進学希望者はオープンキャンパスへ100%参加。進路未決定者0%。 | 夏休みに進学希望者は100%オープンキャンパスに参加した。3年生に向けての進路希望調査では、未決定者が0%であった。1月末の時点で進路指導計画はほぼ100%実施できている。 | 47.8% | 43.5% | 8.7% | 0.0% | 次年度では、個々の生徒に進路希望計画を考えさせ、進路実現に向けての綿密な計画を立てたい。進路希望調査では進路未決定者がいなかったが、迷っている生徒もいる。学年末調査後には個別面談を行い、希望進路を明確にしたい。 | |
| | | 第3学年 | 計画的な補習、模試の受験、オープンキャンパスへの積極的な参加及び進路ガイダンス、進路HRの充実。 | 計画立案から75%の実施。 | 進路指導部のリードの効果で計画的に実施できた。 | 28.6% | 59.2% | 10.2% | 2.0% | 計画立案から90%の実施。 | |
| 6 | 進路広報紙や面談などを通じて、進路情報の積極的提供を行う。 | 進路指導部 | 進路通信を出す。3年就職希望者に対する個人面談を実施。 | ・年3回の進路広報紙配布を目指す。 ・各進路状況に応じた情報を面談などで提供する。 | ・進路通信や就職講話の掲示などで進路行事への意識付けをはかった。また、就職者は個々の呼び出しや集会などを重ね、段階に応じた情報共有を図った。 | 26.5% | 57.1% | 16.3% | 0.0% | 進路通信の年3回以上の発行とともに、情報にデータ化をはかり、教師間で情報共有がスムーズに行えるようにする。 | 研修会の実施や学年通信、保護者会での説明などを丁寧に行っている実感できたが、より広く一般的に情報を発信するため、ホームページをより改善するようにして欲しい。 |
| | | 第1学年 | ・学年通信やLHR、保護者会、面談を通して、積極的な進路情報発信を行う。 ・Benesseによる研修会を活用し、得られた情報の積極的な提供を図る。 | ・保護者会や三者面談、LHRなどで年3～4回の進路情報を発信。 ・Benesse研修会を年1回行う。 | ・保護者会の内容において、進路関係の内容を必ず入れるのみならず、模試の状況や本進路による教育資金などについても伝達。 ・Benesse研修会は現在3回実施済。 | 34.0% | 53.2% | 12.8% | 0.0% | ・進路情報を密に伝えるとともに、本年は特に進学資金等について伝える。 ・Benesse研修会の活用を十分に図る。 | |
| | | 第2学年 | 学年通信「FOR ONE」やLHR・面談等を通して、積極的に生徒に進路情報の発信を行う。 | 月1回以上の学年通信配布や随時のLHR・面談を通して進路情報の発信を積極的に行う。 | 毎月1回ペースで学年通信を配布している。進路希望調査後に担任面談を実施し、進路に対する意識を高めた。また、希望者を対象に主任面談を随時実施している。 | 37.0% | 56.5% | 6.5% | 0.0% | 次年度も毎月1回ペースで学年通信を配布予定である。進路に対する意識を高めたための面談は、現在も随時実施している。 | |
| | | 第3学年 | 学年通信「強く、優しく、美しく！」の発行、保護者会、三者面談、個別面談を実施。 | 月1回以上の学年通信の配布。必要な2分で得られる電話連絡を100%。 | 年間10号を配布し、最後に卒業式号を発行予定。電話連絡100%実施。面談も定期・日常的に実施できた。 | 29.8% | 63.8% | 4.3% | 2.1% | 学年通信を年間15号以上発行。電話連絡100%。保護者会の参加人数増加。三者面談の内容の発展。 | |

| No. | 重点項目 | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評 価委員の提 言 |
|-----|---------------------------------------|-------|--|---|--|------------|--------------|---------------|-------------|--|---|
| 7 | 実力試験（模試）の実施により、学力の到達度を測るとともに意識の向上を図る。 | 進路指導部 | 実力試験の実施を計画し、結果の提供およびデータの蓄積をおこなう。 | 基礎力診断テスト分析結果を年3回職員会議にて報告し、職員で情報を共有する。 | ・模試結果をグラフ化し、他校との比較資料も提供した。 | 29.2% | 45.8% | 25.0% | 0.0% | データを職員会議で年に3回提示し、生徒指導に活かせるようにする。 | 模擬試験の結果が受験結果に反映することがよく分かった。こうしたデータを基にして、授業計画を長期的な視点で作り上げていくことが必要になる。また、授業計画についてもホームページ等で公開することはできないか。 |
| | | 第1学年 | ・模試実施にあたり事前事後の指導を行う、特に模試のやり直しをさせる。 ・模試データの蓄積と分析を行い活用する。 | ・年5回の模試において、丁寧な指導を行うとともに、学力検討会を学期に一度は行い、情報を共有し、学力向上を図る。 | ・模試にあたり必ず事前事後指導をする。特に毎回自己採点を実施。 ・希望者実施の進研模試記述式試験7月10日ともに受験を行うとともに、学力検討会を実施（7月）及び結果報告会を実施し、学年での共有を図った。 | 32.6% | 51.2% | 16.3% | 0.0% | ・模試の活用としてデータ分析及びそれを具体的に進学指導に生かす。 | |
| | | 第2学年 | 年4回の実力試験の実施にあわせて事前・事後の指導を充実させるとともに、データの蓄積と分析をおこない活用する。 | 実力試験ごとに結果分析及び学力検討会を開き、生徒個々の情報を共有し、学力向上を図る。 | 学年会議では実力考査ごとに結果分析を実施。また、来年度の受験指導に向けての情報共有を行っている。個々の生徒における学力検討会は3年に実施予定。 | 26.7% | 60.0% | 13.3% | 0.0% | 実力考査ごとに結果分析は実施したが、各教科の今後の戦略が明確に示されておらず、不安が残っている。取り急ぎ3年6月の進研模試に向けて、各教科の計画的な取り組みを学年で共有したいと考えている。 | |
| | | 第3学年 | 進路指導部と連携を図りながら、データ分析及び面談方法を学年で検討する。 | 結果分析及び志望校検討会を実施し、情報の共有と効果的な指導で面談を行う。 | ベネッセも活用し、結果分析及び指定校、公募推薦検討会、一般入試検討会及び面談を実施し、情報の共有と効果的な指導を行った。 | 28.0% | 56.0% | 14.0% | 2.0% | 模試データの結果分析及び志望校検討会を実施し、情報の共有と効果的な指導で面談を行う。 | |
| 8 | 「総合的な学習の時間」の効果的な実施を図る。 | 進路指導部 | 昨年度立案した内容を具現化する。 | 生徒の評価を3段階（A・B・C）のBを全体の80%を目指す。 | 実施中 | 22.9% | 54.2% | 22.9% | 0.0% | 生徒の評価でB評価以上を85%目指したカリキュラムの作成と実施を行う。 | 生徒の一人一人に応じた進路指導をきめ細かく行っていることがよく分かった。 |
| | | 第2学年 | 進路ガイダンスや体験学習の事前事後指導を実施する。 | 3段階評価（A・B・C）のB評価以上が80%になるよう指導。 | 3段階評価（A・B・C）のB評価以上が80%となるように指導中。 | 18.2% | 65.9% | 15.9% | 0.0% | 3段階評価は年度末に実施予定である。 | |
| | | 第3学年 | 進路に対する実力の向上のため、英語、教養、情報、レポートの分野で効果的な実施の工夫。 | 3段階評価（A・B・C）のB評価以上が80%となることを目指す。 | 3段階評価（A・B・C）のB評価以上が80%以上を達成。 | 19.6% | 65.2% | 15.2% | 0.0% | 3段階評価（A・B・C）のB評価以上が80%。 | |
| 9 | キャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育成する。 | 進路指導部 | ・進路指導におけるキャリア教育の計画を立案し、本校キャリア教育の基礎を形作る。 ・東灘版体験学習の基本形の定着と事前・事後指導の充実を図る。 | ・キャリア教育の計画内容を75%実施することを目指す。 ・事前事後指導を3時間以上は実施する。 ・体験学習後のアンケートを実施し、生徒の満足度80%を目指す。 | ・事前指導4時間実施済み。事後指導も4時間実施。 ・アンケート結果、生徒の満足度86%。 | 36.7% | 49.0% | 14.3% | 0.0% | キャリア教育の計画内容を見直し、マイナーチェンジをはかりながら定着させる。生徒自身が自己を見つめなおせるよう、事前事後指導を丁寧に実施する。 | キャリア教育の充実が東灘高校の特徴になってきているのではないかと。学ぶことと働くことの関連をしっかりと意識して、生徒に目標を与えて欲しい。また、体験学習の充実を図るため、地域、地元企業との連携をより今以上に進めていきたい。 |
| | | 第1学年 | ・職業人インタビューや職業人と語る会・職業調べなどの進路学習を通して、望ましい勤労観や職業観を育成する。 ・学びの意義と働くことの意義を結びつけられるようにする。 | ・年2回以上の勤労感・職業観育成の機会を設ける。 ・現在の学習と働くことの意義を結びつけるような機会を1回以上は設ける。 | ・文化祭での「企業調べ」、夏季休業中の職業人インタビュー、秋季スパオリでの講演会などを通し、勤労観や職業観育成や学ぶことと働くことの意義を結びつける機会を持った。2/17職業人講話を実施予定。 | 40.8% | 46.9% | 12.2% | 0.0% | ・今の学習が将来の職業に結びつくことを生徒に徹底させるとともに、在り方生き方を考えさせる。 | |
| | | 第2学年 | 進路指導部と連携し、勤労観、職業観の育成のため、体験学習を実施 | 体験学習の満足度80%以上、進路未決定者が0%となることを目指す。 | 体験学習後のアンケートでは、満足していると答えた生徒が86%であった。3年生に向けての進路希望調査では、進路未決定者が0%であった。 | 50.0% | 41.7% | 8.3% | 0.0% | 体験学習の生徒満足度が高く、このことが進路アンケートでの進路未決定者0%に反映したように思える。次年度もすべての取り組みにおいて、生徒を満足させることを考えたい。 | |
| | | 第3学年 | 進路指導部と連携を図りながら、進路HRや継続的面談を通して、生徒の適正を見極め、就職に対する意識づけを徹底させる。 | 就職学校斡旋の内定率100%を実現する。 | 夏季休業中、40日の就職指導を実施。就職学校斡旋の内定率100%を達成。（1名職業訓練校へ） | 47.1% | 39.2% | 13.7% | 0.0% | 就職学校斡旋の内定率100%。アルバイトの生徒を出さない指導。 | |
| 10 | 進学補習を組織的・計画的に推進する。 | 進路指導部 | 各学年への進学補習実施を働きかけ、四年生大学・短期大学への進学率の向上、および、関関同立・産近甲龍レベル合格者増加を目指す。 | 四年生大学・短期大学への進学率55%以上、および、関関同立・産近甲龍レベル合格者10名を目指す。 | ・公立大学への2名合格をはじめ、近畿大学への合格者も出た。（1月現在） | 28.6% | 53.1% | 18.4% | 0.0% | 資料提供、情報提供を行い、補習内容に役立てるようにする。 | |

| No. | 重点項目 | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評 価委員の提 言 |
|-----|--------------------|------|--|---|---|------------|--------------|---------------|-------------|---|--|
| 10 | 進学補習を組織的・計画的に推進する。 | 第1学年 | ・進学補習や学習会を実施し、発展的学習への挑戦と苦手分野の克服を図る。 | ・進路マップのGTZ指標によるDゾーンの人数の減少とBゾーン以上人数を50人を目指す。 | ・進路マップの国数英3科目のGTZ指標（4月：Bゾーン52人、Dゾーン98人、8月：Bゾーン24人、Dゾーン134人、12月：Bゾーン94人、Dゾーン70人） ・進研模試記述式の国数英3科目GTZ指標（7月：Bゾーン33人、Dゾーン153人、11月：Bゾーン21人、Dゾーン165人） | 22.4% | 57.1% | 20.4% | 0.0% | ・現在のGTZゾーンのA・Bゾーンの人数のキープ及び上昇を目指すとともにDゾーンの底上げを行う。 | 生徒の授業態度は明らかに改善しており、より今以上に学力を付けるための工夫を考えて欲しい。 |
| | | 第2学年 | 進学補習や学習会を実施し、自学自習と家庭学習の習慣を身につけさせ、一般入試に通用する学力を養う。 | 指名補習の参加100%、希望補習の参加が40名以上。模試においてはGTZのBランク以上が各教科50名以上。 | 指名補習はほぼ全員が参加。不参加者には、個別対応を実施。希望補習は述べ40名が参加。12月の模試においてはGTZのBランク以上が国語65名、数学28名、英語52名であった。 | 34.0% | 48.0% | 18.0% | 0.0% | 次年度は、5教科で希望補習をする予定であり、国公立や有名私立大希望者対象の特別補習も考えている。模試の成績においては数学の力が弱く、受験に利用できない状態である。早急に対応策を考えたい。 | |
| | | 第3学年 | 月曜以外に毎日の実施。英語、日本史、古典、数学、化学、現代文、就職補習を実施。 | 大学、短大の進学率60%を目標とする。関関同立、産近甲龍レベルの大学合格者10名以上を実現する。 | 大学、短大の進学率60%を目標。国公立（2名）関関同立、産近甲龍の合格を獲得。 | 24.0% | 58.0% | 18.0% | 0.0% | 大学、短大の進学率60%を目標。関関同立、産近甲龍レベル合格者10名以上。 | |

【3】 生徒指導の充実

| | | | | | | | | | | | |
|----|-----------------------------|-------|--|---|---|-------|-------|-------|------|---|--|
| 11 | 基本的な生活習慣の確立と規範意識の一層の育成に努める。 | 総務部 | マナーの向上に結び付けるように校内整備や花壇の整備等に力を入れる。 | 校内のすべての設備を大切にしよう、生徒への声掛けを継続する。先生方の足並みをそろえるため報告会を実施する。 | 正面玄関花壇に花を植え整備した。耐震工事中であるため通常時とは異なる南館と仮設校舎との動線等、設備確認及び校内整備のに努めた。 | 32.0% | 56.0% | 12.0% | 0.0% | 耐震工事に伴い、校内の環境が変わる中でも通常の学校生活を送れるように施設管理に努める。花壇の整備等にもより努める。 | 熱心な生徒指導の甲斐あって、生徒のマナーや授業中の取り組みなどはめざましく改善されている。今後もより高い目標を目指して計画的な指導を進めて欲しい。また遅刻の取り組みと進路結果の関連などの情報を発信して欲しい。 |
| | | 生徒指導部 | ・月間遅刻指導や1年生での8:30登校を実施し、学年との連携のもと、時間厳守の意識を高め、遅刻者を減少させる。 ・服装カード指導を実施し、正しい服装の着こなしを身につけさせる。 ・登下校指導やPTA・保護者と連携した「おはよう運動」を実施し、登下校マナーの向上とあいさつの習慣化を図る。 ・登下校指導や校内巡回の場所や回数を増やすことで、生徒の変化や美化状況を把握し迅速に対応することで規範意識の向上を図り、特別指導を減少させる。 | ・月間遅刻指導の指導対象者を全学年で10名以内にする。 ・服装カード指導の指導対象者を各期間3名以内にする。 ・苦情件数の月間平均を1件以内、苦情案件の再発0件を目指す。 ・年間の特別指導件数を15件以内。特別指導件数0件の月を5カ月以上。特別指導案件の再発生徒0人を目指す。 | ・月間遅刻指導対象者（3回以上）は、1月末現在87名。各月平均8.7名。ほぼ毎月指導を受ける常習者への対応が必要。 ・服装指導は、1月より正門と服装指導カードによる指導を強化し、ボタンやブレザーについては改善がみられる。 ・苦情件数の月間平均は3件。年度後半は、深江駅から学校間の苦情や情報提供は減少している。 ・1月末現在の特別指導件数は13件、指導対象者数は32名、再指導対象者は8名。4月、7月、1月は指導件数0件。指導件数及び0件月間の目標は達成可能な状況である。 | 45.1% | 41.2% | 13.7% | 0.0% | ・遅刻指導に関しては、これまでの回数に応じた指導に加えて、面談に重点の置いた内面からの生活習慣改善に力を入れる。 ・服装指導は、服装の乱れに対する指導だけでなく、正門・SHR・始業時の指導など予防的指導にさらに力を入れる。 ・登下校指導については、引き続きPTAの協力も得ながら、「おはよう運動」や通学路立ち番を実施し、登下校マナーやあいさつの指導を図る。地域の協力や生徒参加による指導も検討していきたい。 ・保健部・総務部等とも連携しながら、生アクト指導とともに環境美化にも力を入れ、別の角度からの規範意識向上にも力を入れる。 | |
| | | 保健部 | 生徒の基本的な生活習慣確立に向けて校内美化に取り組む。 | 日々の忙しい生活の中でも継続して取り組めるように先生方の足並みをそろえて生徒に指導していく。 | 本年度は北校舎の耐震工事があって6月・2月の引越、行事ごとの大掃除等、足並みを揃えて落ち着いて取り組んだ。 | 29.4% | 47.1% | 23.5% | 0.0% | 今年初めての担当で校舎の引越もあり、いろいろ先生方に迷惑をかけた。来年は今年の反省をもとにきめ細かく対応していきたい。 | |
| | | 第1学年 | ・生徒指導部主導の遅刻指導・服装指導・携帯指導・登下校指導等を徹底し、基本的な生活習慣を確立させるとともに、ルール遵守を徹底する。 ・教員が指導方針（ルールややり方）を十分に理解し、生徒全員に統一した同じ指導を行うと共に、教員の初動を大切にすること。 ・教室や学年フロアの点検を日々おこない、常に校内美化に努めることで、さまざまな問題を未然に防ぐ。 | ・各指導者月間5人以下を目指す。 ・常に報告連絡相談を行い、定期的な報告検討を行う。また、年1回の拡大学年会を開催し、学年の指導目標を理解してもらう。 ・月間2～3回程度、各フロアの点検を行う。 | ・生徒指導部指導の各指導において、ルール遵守を徹底させるために、日々の声かけや毎学年集会時での全体への指導徹底。 ・教員間における指導方針の徹底については、学年会での確認を実施。しかし、連携や意思疎通については再確認が必要。 ・毎日の始業時、学年フロアの点検校内美化を実施。授業巡回時にも確認。 ・今までの平均月間数（携帯指導8.8人、服装指導9.9人、遅刻指導7.9人）。携帯指導・遅刻指導は減少傾向。服装指導は強化指導中。 | 32.0% | 52.0% | 14.0% | 2.0% | ・「中だるみ」と言われる2学年でも1学年で確立した生活習慣を土台に、自発的な行動が出来るように指導する。 | |

| No. | 重点項目 | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評価委員の提言 |
|-----|--|-------|--|--|---|------------|--------------|---------------|-------------|--|--|
| | 基本的な生活習慣の確立と規範意識の一層の育成に努める。 | 第2学年 | カウント制の遅刻指導・服装指導・携帯指導や登・下校指導を徹底し、基本的生活習慣を確立させ、自発的に正しい服装を身につけさせると共にルールを遵守させる。また、授業や集会を通して、時間厳守や挨拶の励行・TPOに合わせた言葉遣いやマナーの指導を徹底する。日々の清掃指導を徹底し、学習環境の整備に努める。 | 月間5回以上の遅刻での保護者来校を5名以下。問題行動0件に抑える。 | 1月末現在で遅刻、欠席により保護者来校のもと指導した生徒は延べ3名、問題行動(校長訓戒以上)は6件11名である。 | 22.4% | 53.1% | 22.4% | 2.0% | 欠席により保護者来校のもと指導した生徒は1学期のみであった。次年度では、月間5回以上の遅刻での保護者来校および問題行動を0にできるよう、取り組んでいきたい。 | 熱心な生徒指導の甲斐あって、生徒のマナーや授業中の取り組みなどはめざましく改善されている。今後もより高い目標を目指して計画的な指導を進めて欲しい。 |
| | | 第3学年 | 欠席、遅刻者数の減少のため、週に2回以上の欠席または遅刻があった生徒は個別面談を実施。教職員の積極的なあいさつ運動。問題行動「0」。 | 月間5回以上の遅刻での保護者来校を0名。週に2回以上の欠席・遅刻で面談指導をする生徒が5名以下、問題行動0件を目指す。 | 月間5回以上の遅刻での保護者来校なし。週に2回以上の欠席・遅刻で面談指導をする生徒の減少。特別指導減少(2学期1回)。 | 30.8% | 51.9% | 11.5% | 5.8% | 学校としての欠席・遅刻人数の減少戦略を実施。月間5回以上の遅刻での保護者来校を0名。週に2回以上の欠席・遅刻で面談指導をする生徒が5名以下。問題行動0件。 | また遅刻の取り組みと進路結果の関連などの情報を発信して欲しい。 |
| 12. | 学習活動との調和を図りながら、生徒の自主的能力の育成・支援に努める。HR活動、生徒会活動、学校行事、部活動などの充実を進める | 生徒指導部 | ・部活動全入制を実施と行事での部活動の活躍場面設定により、部活動の活性化を図る。 ・生徒会の活動内容の検討と改善を行う。 ・学級経営に関する研修会を実施し、生徒の社会性や自主性の育成、自己実現を図る方法を共有する。 | ・入部率65%を実現する。 ・生徒会発信の行事イベントを年間2件以上実施する。 ・学級経営に関する研修会・勉強会を年間3回以上実施する。 | 年度当初の入部率は65%を上回ったが、全入制が解除となる9月以降は54%である。研修会は実施できなかった。 | 13.2% | 56.6% | 26.4% | 3.8% | ・引き続き1年1学期の部活動全入制を実施する。部活動勧誘や部活動選択の選択肢の提示の仕方、部登録の手続き、活動時間などを総合的に検討し、より多くの生徒が活動しやすい環境を作ることからも、加入率向上を図る。 ・若手教員に対する学級経営や生徒指導面での研修を小規模なところから計画・実施したい。 | 部活動や学校行事を充実させることで、生徒の一人一人に夢を体感させ、自身を持たせようとする姿勢は評価できる。こうした行事に地域や企業としても協力していきたいので、情報発信をきめ細かくして欲しい。 |
| | | 保健部 | 先生方が足並みを揃えて清掃指導に当たれるように支援していく。 | 概ね良好な清掃活動ができていくかを定期的に確認する。 | できる限り見回すが、概ねよくできていた。やり直しをお願いしても快く応じていただけた。 | 25.9% | 44.4% | 29.6% | 0.0% | なかなか手が回らなかったが、美化委員を有効に活用していきたい。 | |
| | | 第1学年 | ・部活動の充実を図る。 ・HR活動や学校行事といった特別活動を充実させ、生徒の自己肯定感上昇や達成感・充実感を得させるとともに、自主的に動けるような仕掛けを行う。 | ・部活動全入制後の入部率7割を目指す。 ・各行事の満足度・充実感を7割以上の生徒が感じられることを目指す。 | ・各行事の満足度は、深江浜周辺企業調べ「楽しかった62%」、体育祭「充実感・達成感を感じた83%」、校外体験学習「楽しかった85%、満足度84.8%」であった。 | 28.8% | 57.7% | 13.5% | 0.0% | ・HR活動や各行事といった特別活動を積極的な姿勢で取り組み、達成感や充実感を得る機会とするとともに、リーダーを育てる機会にする。 | |
| | | 第2学年 | 部活動全入制後の充実・改善を図る。ボランティア活動や特別教育活動への積極的な参加を促す。 | 入部率60%以上を維持。学校行事の生徒満足度が80%以上となることを目指す。 | 1月末現在、入部率60%であった。10月の体験学習では、生徒満足度が74%であった。今後、修学旅行のアンケートを実施予定。 | 29.4% | 56.9% | 13.7% | 0.0% | 修学旅行のアンケートでは、生徒満足度が98%であり、ほぼ全員が満足したようである。修学旅行後、学年の雰囲気はかなり良くなったように思える。次年度もすべての取り組みにおいて、生徒を満足させることを考えたい。 | |
| | | 第3学年 | 最高学年としてのTPOに応じた行動力を身につける。 | 活躍の場を学年通信等で発信。学校行事の生徒満足度が80%以上となることを目指す。 | 文化祭、体育大会など学校行事では最高学年の自覚のもと、団結し、学校をよくリードした。学校行事の満足度90%以上。 | 35.2% | 51.9% | 11.1% | 1.9% | 活躍の場を学年通信等で発信。学校行事の生徒満足度85%以上。 | |
| 13. | 教育相談の充実を図り、生徒の内面理解に努める。 | 生徒指導部 | 登下校指導や校内巡回によって生徒の情報・様子を把握し学年と共有することで、気になる生徒への早期対応と内面理解を図る。 | ・週1回の生徒指導部会において情報を共有する。 ・学年と連携し、生徒との生徒指導部面談を実施する。 | ・週1回の生徒指導部会により情報共有や体制改善を図ることができている。 ・下半期は生徒指導部面談は実施していないが、学年と連携した正門指導を開始した。 | 45.3% | 45.3% | 9.4% | 0.0% | ・定例の生徒指導部会のさらなる活用を図る。 ・特別指導経験生徒や遅刻・服装し王対象者に対しては、生徒指導部面談を充実させていきたい。 ・仮設校舎での学校生活による生徒の変化・動揺に備え、通年の校舎内巡回を検討し設定する。 | 生徒の実情に応じた指導を行うためにも、個々の生徒の状況把握は大切なので、アンテナを高く張り巡らして、生徒の声に応えて欲しい。 |
| | | 保健部 | 学年・関係各部と連携して実態に合わせた命・心の教育を展開する。 | 先生方との協力体制を構築し、適切に対応する。 | 先生方は、生徒・保護者の悩みを聞いたうえで、教育相談を活用してくれた。 | 35.8% | 47.2% | 17.0% | 0.0% | 来年はさらにキャンパスカウンセラー等々も連携していきたい。 | |
| | | 第1学年 | ・キャンパスカウンセリングの案内を確実に、必要な生徒に相談の場を提供する。 ・こまやかな声掛けや面談を通して生徒理解に努めると共に、学年会で報告することで学年団全員で情報共有し、生徒理解をさらに深める。 | ・定期的な案内の実施 ・毎週1回の学年会で必ず生徒のことを話題にし、生徒理解に努める。 | ・キャンパスカウンセリングについて、定期的な案内と適切な実施。学年会での確認と受診者の確認。(現在延べ4人受診) ・毎週1回の学年会で必ず生徒のことを話題にし、クラスのみならず学年全体での情報共有を実施。 | 37.3% | 49.0% | 13.7% | 0.0% | ・今年度と同様に心のケアを大切に、生徒の心に寄り添う傾聴の姿勢で取り組む。 | |

| No. | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評価委員の提言 |
|----------------------|-------|--|---|---|------------|--------------|---------------|-------------|---|---|
| 13 | 第2学年 | 生徒情報を普段から随所でキャッチし、生徒理解に努めるとともに、関係部署と情報を共有し、早期対応を心掛ける。人権教育をLHR年間指導計画の中に位置づけ推進し、人権意識を高める。 | 進路変更者10人以下、いじめ0人を旨す。 | 1月末現在で進路変更者は12名。アンケートや面談の結果、いじめは認知されていない。 | 32.1% | 50.9% | 17.0% | 0.0% | 進路変更者のほとんどが学力が低く、将来の展望が希薄な生徒であった。進路変更者を0にするためには、個々の学力充実を図ると同時に、将来に対する明るい展望を持たせる教師の積極的な働きかけが必要であると考える。いじめ件数0は目標ではなく、教師の責任という自覚を持って取り組んでいきたい。 | 生徒の実情に応じた指導を行うためにも、個々の生徒の状況把握は大切なので、アンテナを高く張り巡らして、生徒の声に応えて欲しい。 |
| | 第3学年 | 人権HRを活用し、人権教育、多文化理解の充実。 | 進路変更者、長期欠席者0人を旨す。 | 教科や生徒指導部等とタイアップして、各学期、様々な形で人権教育を実施した。人権HRでは、2学期にデートDVを中心に人権教育にも当たる。進路変更者3名、長期欠席者0名。 | 28.8% | 51.9% | 15.4% | 3.8% | 進路変更者、長期欠席者0名。 | |
| 14 | 生徒指導部 | ・幼稚園との芋掘り体験活動や、高齢者とのふれあい活動を継続して行う。 ・ボランティア活動の案内・募集を促進し、生徒が参加する機会を増加させる。 | ・年間25件以上、地域活動やボランティア活動を企画または案内し、生徒参加を実現する。 ・生徒による定期的な地域清掃や挨拶運動を実施する。 | 12月までにボランティア参加件数は25回以上を達成したが、1学期のような、地域清掃は下半期にかけて大幅に減少した。 | 49.1% | 39.6% | 11.3% | 0.0% | ・定例の生徒指導部会のさらなる活用を図る。 ・特別指導経験生徒や遅刻・服装し王対象者に対しては、生徒指導部面談を充実させていきたい。 ・仮設校舎での学校生活による生徒の変化・動揺に備え、通年の校舎内巡回を検討し設定する。 | 地域との連携についても積極的に取り組んでいるが、地元の学校としてより地域活性化のために貢献してくれればありがたい。 今後は地域と地元企業、学校の連携を強化する企画を通じて、より連携が活発に進むことを期待している。 |
| | 保健部 | グリーン作戦を通じて、生徒の美化意識と社会貢献の意識を高める。 | 地域にアピールできるものとした。 | 天候の具合により1・2学期は実施できず。3学期はいいものを目指したい。 | 18.5% | 44.4% | 35.2% | 1.9% | 年間実施回数等を先生方の意見を取り入れて検討していきたい。 | |
| | 特色推進部 | ひがだねボランティアを通じてボランティア活動に目を向けさせ、積極的な参加を促す | ひがだねボランティアの参加の場を増やす | ひがだねボランティアの活躍を増やすことができた。 | 43.4% | 45.3% | 11.3% | 0.0% | ・オープンハイスクルのためだけのひがだねボランティアでなく、学校広報のために活躍できる場をもっと増やしていきたい。駅前や通学路の花植えなど活動を増やしていきたい。 | |
| | 第1学年 | ・クリーン作戦を通して社会貢献の意識を高める。 ・積極的なボランティア活動の案内を行う。 | ・クリーン作戦を通して、社会貢献の意義を理解させる。 ・東北ボランティアの参加人数を受け入れ限度人数まで参加させる。 | ・クリーン作戦は警報のため未実施。 ・受け入れ人数の倍以上の希望者があり、抽選で人数選定。 | 24.5% | 59.2% | 14.3% | 2.0% | ・様々な機会ととらえ、社会貢献する姿勢を養う。 | |
| | 第2学年 | グリーン作戦を通して、美化意識と社会貢献の意識を高める。 | 地域にアピールできるレベルの高いものとする。 | グリーン作戦は年度末に実施予定。 | 18.2% | 63.6% | 15.9% | 2.3% | グリーン作戦は3月18日に実施予定である。美化意識と社会貢献の意識を高める良い機会となるよう、生徒に働きかけたい。 | |
| | 第3学年 | グリーン作戦への取り組みに個人の役割分担を明確にし、責任感を育てるよう指導する。 | 生徒の自己肯定感が育つ事前指導の実施。 | 2学期に雨天時バージョンに切り替え実施した。意欲的に取り組めた。 | 19.1% | 63.8% | 14.9% | 2.1% | 生徒の自己肯定感が育つ事前指導の実施。 | |
| 〔4〕 健康・体力の増進と安全教育の推進 | | | | | | | | | | |
| 15 | 保健部 | 自らの健康課題に気づき、心身の健康保持増進が図れる実践力を育てる。 | 保健部会を定期的に開催すると共に、来室した生徒の情報交換を学年と密に行い、生徒を側面から援助する。 | 学年保健担当と連絡を密にし、生徒が自主的に心身の健康保持増進が図れるようになった。 | 27.9% | 60.5% | 11.6% | 0.0% | 例年同様に保健委員の取り組みを充実させていきたい | 生徒への丁寧な対応、一人一人の悩みに向き合い、心のケアに努めて欲しい。 |
| | 第1学年 | ・8:30分登校を活用し、基本的な生活習慣の確立を通して、健康に対しての自己管理の態度を育成する。 ・欠席が多く、また、連続欠席の生徒に細やかな指導とケアを行う。 ・保健部と連携し、生徒情報をこまやかに共有する。 | ・8:30分登校遅刻者に対して、健康面での自己管理などについて指導をする。 ・欠席が多く、連続欠席の生徒に対して改善を促す。 ・生徒の健康情報を学年団で共有し、定期的な保健部との連携を図る。 | ・8:30分登校遅刻者1~2人。 ・欠席者については毎日必ず連絡し状況の確認。多いものに対しては、家庭訪問を行い、改善をしている。 ・保健室の利用者や状況の定期的な報告、情報共有。保健室利用は減少傾向。 | 41.9% | 48.8% | 7.0% | 2.3% | ・8:30分登校の効果は次年度にも継続していく。 | |
| | 第2学年 | 関係各部と連携して、予防に焦点を当てた健康・心の教育を展開する。 | 進路変更者10人以下を旨す。 | 1月末現在で進路変更者は12名。 | 22.2% | 55.6% | 22.2% | 0.0% | 進路変更者のほとんどが学力が低く、将来の展望が希薄な生徒であった。進路変更者を0にするためには、個々の学力充実を図ると同時に、将来に対する明るい展望を持たせる教師の積極的な働きかけが必要であると考える。 | |

| No. | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評 価委員の提 言 |
|-------------|-------|---|--|---|------------|--------------|---------------|-------------|--|---|
| 15 | 第3学年 | 健康管理能力、自己管理能力を育てる。プラス思考を習慣化する取り組みや発言の指導。 | 各自が使用している手帳による生活リズムのデータ化、生活行動の分析を行う。 | 各自が使用している手帳による生活リズムのデータ化。生活行動の分析を1週間単位でチェックを行った。 | 18.8% | 56.3% | 22.9% | 2.1% | 各自が使用している手帳による生活リズムのデータ化。朝食を習慣化。生活行動の分析。 | 生徒への丁寧な対応、一人一人の悩みに向き合い、心のケアに努めて欲しい。 |
| 16 | 保健部 | 学年・関係各部と連携し、カウンセラーに相談しながら特別支援教育委員会（いじめ対応チーム）を機能させ、生徒を育成する。 | 気づきシート等を活用し、保健部会等を通じて先生方の協力体制を構築し、適切に対応する。 | その都度、学年から生徒について有益な情報提供があり、良き情報交換の場として機能している。 | 28.3% | 58.7% | 10.9% | 2.2% | 保健部会と特別支援教育委員会を通じて情報を吸い上げて対応していきたい。 | いじめの根絶に向けて、これからも最大限の配慮をして欲しい。それとともに、いじめが起こらない環境作りを進めて欲しい。 |
| | 第1学年 | ・心の教育または人権に関するLHRや集会を行うことで、予防に焦点を当てた取り組みを行う。 | ・心の教育または人権に関するLHRを年1度は行うと共にタイムリーな集会での指導を行う。 | ・11月25日（水）携帯電話等を題材にした人権HR「インターネットについての正しいルールと知識を身に付け、人権尊重意識を持って利用できるようにする」を計画実施。話し合い活動を実施。 ・いじめアンケートにおいて丁寧なヒアリングを実施。 | 28.3% | 60.9% | 10.9% | 0.0% | ・素直な心を育てる、さらなる仕掛けづくりをする。 | |
| | 第2学年 | 関係各部と連携して、予防に焦点を当てた命・心の教育を展開する。 | いじめ0人を実現する。 | アンケートや面談の結果、いじめは認知されていない。 | 28.3% | 56.5% | 13.0% | 2.2% | いじめ件数0は目標ではなく、教師の責任という自覚を持って取り組んでいきたい。 | |
| 17 | 保健部 | 教科や行事と連携を図り、活力ある生活を支え、たくましく生きるための基礎体力を養う。 | 教育活動全体を通じて、体育・スポーツ活動を継続的に行う。 | いろいろな行事等で生徒を見守りながら、基礎体力育成のサポートをしたい。 | 19.1% | 66.0% | 14.9% | 0.0% | 更なる連携を深めて生徒の体力向上を図りたい。 | 高校生の体力低下が問題になっている。社会に出た時に最後は体力勝負となる。部活や学校行事の機会などを通じて、高校生の体力増強に努めて欲しい。 |
| 〔5〕 広報活動の充実 | | | | | | | | | | |
| 18 | 特色推進部 | ・本校ならではの活動や生徒たちの生き生きとした様子を、より早く、分かりやすく伝える。 | ・多くの中学校の説明会などに参加し、分かりやすく説明し、本校のことを理解してもらおう。アンケート結果で「分かった」という結果を、7割以上目指す。 | ・学校新聞を定期的に発行し、本校ならではの活動を広報することに努めた。 ・オープンハイスクール、学校説明会において本校のことをより分かってもらえるように、雨天時の見学コースなど細部に手を加えた。 | 35.7% | 52.4% | 11.9% | 0.0% | 定期的に発行する学校新聞に、いろいろな人が見てわかりやすい工夫を凝らしていく。 | ホームページは昨年と比べてかなり見やすくなった。今後はもっと地域に情報を発信するなど内容の充実を図って欲しい。 |
| | 保健部 | 生徒の健康課題等、実態に合わせた保健だよりを発行する。 | 問診票を記入させ、健康相談活動や個別保健指導により、生徒の健康課題の把握に努める。 | 教育相談、担任からの情報提供で、生徒の健康課題把握に努めた。 | 31.1% | 57.8% | 11.1% | 0.0% | いろいろな声を反映した保健だよりを作成していきたい。 | |
| 19 | 特色推進部 | ・ホームページの画面をより見やすいものに変更する。 ・学校説明会では本校のことをよく理解してもらえるように本校の生徒の活躍の場を増やす。 | ・特色推進部の活動として、具体的に成果を上げる。 | ・具体的な評価として、ホームページのホームを更新し見やすくした。 ・これからもよりよきものになるように手を加えていく。 ・ブログ内容の更新も頻繁に行うことができた。 | 39.1% | 43.5% | 17.4% | 0.0% | ホームページの更新を続けていきたい。より分かりやすく、より見やすく情報を発信できるようにしていきたい。 | |
| 20 | 総務部 | 地域と連携し合同防災避難訓練を実施する。 | より実効性のある形で年1回実施する。 | 地元地域の各団体、近隣企業に多数参加して頂き、防災訓練を行った。その中で防災対策に関して積極的な意見交換がなされ、より地域とのつながりも深めた。 | 35.6% | 46.7% | 15.6% | 2.2% | より地域との連携を図った合同防災訓練を目指し、それをきっかけに地域の方々に本校への理解、つながりを深めてもらうことを目標とする。 | 地元企業・学校・地域住民の三者が連携して地域を活性化させる協働連携事業を進めることで、地域に密着する学校づくりを図って欲しい。ボランティアの活動など、生徒の活動をもっとサポートできる機会を作ってほしい。 |
| | 保健部 | 月1回、保健部会を開催し、生徒の情報交換および学年との連携を図る。 | 必要に応じ、担任・キャンパスカウンセラー・家庭・関係諸機関と連携を取り、心身への配慮が必要な生徒の早期発見に努める。 | 平常より密に担任・キャンパスカウンセラー等と連携をはかり、早期発見に努めるようにした。 | 26.2% | 61.9% | 11.9% | 0.0% | 日頃から生徒のいろいろな情報を吸い上げるようにしていきたい。 | |
| | 特色推進部 | ・学校行事や夏季体験学習などの様子等を詳しく発信することで、地域との連携を強める。 ・ひがだねボランティアの育成に力を入れる。 | ・情報の発信はより早く、より分かりやすく行う。 ・ひがだねボランティアの活躍の場を多くする。 | ・ひがだねボランティアや生徒会の活躍によって、オープンハイスクールや学校説明会を生徒達先導で回すことができるようになってきた。 | 39.1% | 47.8% | 13.0% | 0.0% | 当日のみ生徒先導でなく、生徒会から発信するポスターの内容など内容にも生徒が参加できるようにしていきたい。 | |

| No. | 重点項目 | 部・学年 | 具体的取り組み | 評価指標 | 最終報告 | A(%) 満足 | B(%) やや満足 | C(%) やや不満足 | D(%) 不満足 | 次年度へ向けた展望 | 学校評議員 学校関係評 価委員の提 言 |
|---------|------------------------------------|---------|---|--|---|------------|--------------|---------------|-------------|---|---|
| 20 | 保護者・地域との連携を図り、開かれた学校作りを推進する。 | 第1学年 | ・学年通信を定期的に発行し情報発信するとともに、年2回の保護者会の積極的参加を促す。 | ・年15回程度の発行を目指す。 ・保護者会出席率3割を目指す。 | ・学年通信現在12回発行済。15回発行完了予定。 保護者会出席者各80名程度。 | 38.3% | 53.2% | 8.5% | 0.0% | ・学年通信を今年度同様にタイムリーな情報をもって作成配布する。 | 地元企業・学校・地域住民の三者が連携して地域を活性化する協働連携事業を進めることで、地域に密着する学校づくりを図って欲しい。ボランティアの活動など、生徒の活動をもっとサポートできる機会を作っていきたい。 |
| | | 第2学年 | 学年通信を月1回以上の頻度で発行する。無断遅刻・欠席者は直ちに家庭に連絡、1ヶ月に欠席3日以内、遅刻3回以内を基準に、上回る生徒への生徒面談及び保護者への連絡を行う。さらに回を重ねる者は保護者来校のもと指導を行う。 | 保護者来校のもと指導される者が5人以下となることを目指す。 | 毎月1回ペースで学年通信を発行した。遅刻、欠席により保護者来校のもと指導した生徒は1月末現在で延べ3名。 | 23.4% | 63.8% | 12.8% | 0.0% | 次年度も毎月1回ペースで学年通信を配布予定である。遅刻、欠席により保護者来校のもと指導した生徒は1学期のみであり、2、3学期は0であった。次年度は年間0を目指したい。 | |
| | | 第3学年 | 学年通信を月1回以上の発行。日々の些細な電話連絡の充実。保護者来校及び家庭訪問での指導。 | 保護者への連絡のうえ、家庭との協力がさらに必要な場合は三者、四者面談を実施。 | 進路関係の学年指導で、日常的に必要なに応じて個別の保護者面談を実施。 | 24.4% | 66.7% | 8.9% | 0.0% | 保護者への連絡のうえ、家庭との協力がさらに必要な場合は三者、四者面談を実施。 | |
| 〔6〕 その他 | | | | | | | | | | | |
| 21 | 学校評価を用いた評価システムを基に、活力ある学校作りを推進する。 | 第1学年 | ・学年経営方針を学校評価に明確に位置付け、評価指標クリアできるように努める。 | ・評価指標達成8割を目指す。 | ・評価指標に勤めている | 17.4% | 67.4% | 15.2% | 0.0% | ・明確な学年経営方針をたてる。 | 学校評価をもっと学校づくりに活用して欲しい。 |
| | | 第2学年 | 学年経営方針を学校評価に明確に位置づけ、評価指標を設定し、クリアできるように努める。 | 上記の80%以上の項目で評価指標をクリアする。 | 評価指標の達成に勤めている。 | 18.4% | 65.3% | 16.3% | 0.0% | 評価指標の達成は56%であった。達成目標を比較的高く設定したこともあったが、80%の達成には多くの課題が残されている。次年度に向けて、設定目標を下げることなく、それぞれの課題を明確にして、その方策を考えたい。 | |
| 22 | 校務の適切なスクラップアンドビルドを推進し、学校改善・改革に努める。 | 第1学年 | ・学年目標を明確化し、それに応じた役割担当者を決める（学年独自分掌「仕掛け人」）ことで、より効率のよい経営を行う。 | ・学年独自の分掌「仕掛け人」ごとに定期的な話し合いを持ち、学年会に提案してもらうことで、効率のよい学年経営を目指す。 | ・各仕掛け人チームごとの学期・月間目標の立案および学年会での提案、実施。また、学期ごとに「〇学期をおえて～気になること、課題、成長した部分」などをあげてもらい、反省点検討し、目標を見直し再度学年で取り組む。 | 34.0% | 55.3% | 10.6% | 0.0% | ・仕掛け人チームの入れ替え見直しと今後の展望作成する。 | 学校の様子も数年前とはかなり変化しているので、現状に合わせた適切な改善を進めて欲しい。 |
| | | 第2学年 | 毎週の学年会で現況報告と分析・情報交換を行い、学年経営の改善に努める。学年会議の精選と時間短縮を行う。 | 学年団で情報を共有し、41回生としての企画・立案を行う。 | 毎週の学年会では現況報告と分析・情報交換を行っている。学年会議は、1週間に1回定例の会議に限定し、緊急の場合を除いては放課後や昼休みには実施していない。2学期の期末考査以降、受験に向けて国・英・数の補習を実施。3学期には理科の補習を計画している。 | 28.6% | 63.3% | 8.2% | 0.0% | 学年会では現況報告と分析・情報交換は常に行いたい。また、次年度も会議は1週間に1回定例の会議に限定し、放課後や昼休みには実施しない予定である。次年度の補習体系は5教科実施予定であり、国公立や有名私立大希望者対象の特別補習も考えている。 | |
| | | 第3学年 | 各種会議の議題や資料の事前配付及び事前準備の徹底。会議の時間短縮や精選。毎週の学年会議の充実。 | 学年会議での生徒情報や共有事項の徹底。発展的改善への行動力。 | 35回の定例学年会議（火曜5限）で毎回進路指導部に出席いただき情報共有や指導の徹底を行った。 | 34.0% | 55.3% | 10.6% | 0.0% | 学年会議での生徒情報や共有事項の徹底。発展的改善への行動力。前年度の事例をもとに危険予知能力のレベルアップ。 | |
| | | 将来構想委員会 | 将来構想委員会において本校の現状分析を行い、短・中期的に、学校の活性化を図る。また、学校行事の再検討・精選に向けた基本方針などを策定する。 | ・実効性のある具体的目標を3個以上確定する。 ・目標達成率7割を目指す。 | 修学旅行を研修旅行に改め、行き先をグアムなどの海外を候補として国際交流に基づいた研修旅行の実施を提言した。 | 20.0% | 54.0% | 22.0% | 4.0% | 今後、定期的に委員会を開催し、東灘高校の戦略的展望を見据えた、さまざまな提言等を積極的に発信していきたい。 | |